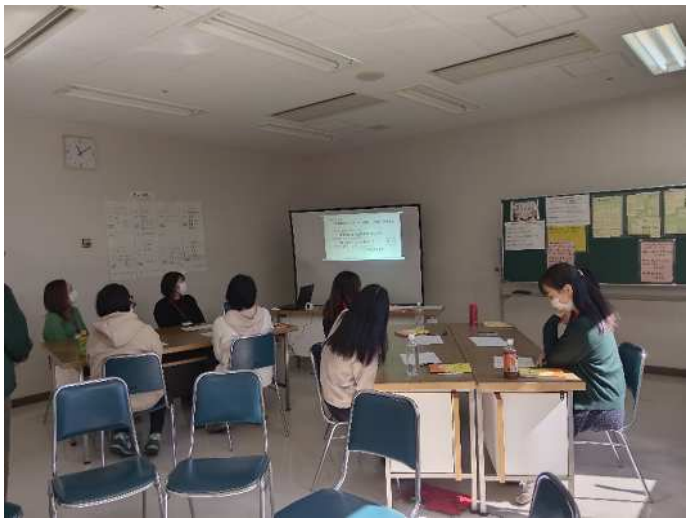
令和６年度市民提案協働事業　事業報告書

事業名

「親子の絆づくりプログラム“幼児とともに！”BP3」



１　実施団体

NPO 法人青梅こども未来

２　担当課

子育て応援課

３　実施時期

令和 7 年 2 月 19 日～3 月 19 日（毎週水曜日　計 5 回）

４　参加者

1 歳から未就学児の子どもを育てている母親　8 名

５　実施場所

青梅市福祉センター　集会室

６　事業の目的

親の不安の軽減・心身の安定

少し先を見通した子育て知識の提供

７　役割分担

・団体の役割

・広報活動（広報掲載・ニュースレター・チラシ・ポスター・SNS 発信）

・講師依頼

・事務受付スタッフ要員

・健康センター、子ども家庭センターへの説明

・会場準備

・担当課の役割

・市内保育園、幼稚園にポスター、チラシの掲示依頼

・市内の関係各所にポスター、チラシの掲示

・青梅市の広報掲載・SNS などの発信

８　事業の効果（どのような地域課題が解決できたか）

「生まれながらに一人前の親はいません」「親は子育てをする中で周り

からの情報やサポートを受けながら、親は育っていくものだ」という視点から親業（parenting）を学ぶ機会を提供することが出来た。また、親としてのニーズ（自分の子どもを自分で育てたい、子どもと関わっていたい）と親自身の自己実現を図りたいという 2 つのニーズが両立できるように支援することの重要性を伝える機会となった。親を親として育て、親を支援する機会となった。

９　目標達成

事業の目標：

・1 歳以上の子どもとの関わりを学ぶ

・子育てを共有し相談できる仲間をつくる（ピアレビュー）

・母親の育児不安や心の安定を図る

・子どもの発達を学ぶことにより焦らず完璧を求めない子育てをすることが出来る

・「親としてより良く生きる」という親自身の人生についても考えていく

目標の達成具合：

・参加者の子どもの年齢は 1 歳から 6 歳と幅が広がった。また、長子が中学生、小学生高学年の参加者もいらした。年齢幅はあったが、幼児期の子どもを育てている母親ということでは一緒である。

・コロナ禍で長子の関わるコミュニティでも人とのつながりがあまりない現状の方がいることが分かった。その様な中での子育て情報を共有する機会がないことも子育てでの不安そして母親の心の不安定につながることも参加者同士の話し合いの中で見出してくれた。

・子育てするときに指針とすべき、長年の英知が生み出した保育学や発達心理学に基づく科学的な子育て論をわかりやすく伝えた。それにより子どもの成長の道筋を理解し、今の子育てが思春期に繋がることを伝えた。

・参加した母親からのアンケートからは、

*同じ悩みを持っている方と話ができて安心することが多かった。

*イライラした時は少し距離をとりながら楽しく育児をしようと思いました。参加出来てよかった。

*このタイミングで参加できてよかった。子どもとの向き合い方も少しずつ変化し、イライラすることも少し減ってきたように思う。

*目の前の子どもの成長、幸せをもっと意識したい。

*上の子との時間をつくるようにしたり子どもがどう思っているだろうかなど考えることが多くなった。　　（アンケートより抜粋）

10　事業の実施内容

　実施する回数は5回、毎週同じ場所で同じ時間、同じメンバーで開催する

〇実施会場　青梅市福祉センター集会室

〇開催日程　2025年2月19日（水）、26日（水）、

　　3月5日（水）、12日（水）、19日（水）

〇参加者　　申し込み　9名

・各回のテーマ

　1回目セッション「新しい出会い」

　2回目セッション「子どもとの関わり方」

　3回目セッション「子どもの発達と「しつけ」」

　4回目セッション「私のストレス」

　5回目セッション「親として、より良く生きる」

・対象　1歳～就学前の子どもを育てている母親　20組

・講師　日本 BP プログラムセンター公認　BP3 ファシリテーター　2 名

・講座の構成　1 回 2 時間　　毎回テーマにそっての話し合い、DVD やテキストを使っての基礎知識のまとめなど

前半 1 時間 40 分は構造化されたプログラム

後半 20 分は交流・質問タイム

11　実施団体と担当課の事業評価

４はい　３どちらかといえば「はい」　２どちらかといえば「いいえ」　１いいえ

調査項目	団体	担当課
(1) 事前の話合いを十分に行い、役割分担は明確になっていた	4	4
(2) 事業に最もふさわしい協働形態が選択された	4	4
(3) 協働の役割分担は適切だった	4	4
(4) 協働相手は適切だった	4	4
(5) 対等な立場での協力関係を築けた	4	4
(6) 協働相手の自主性・自立性は尊重された	4	4
(7) 事業実施は円滑になされた	4	4
(8) 設定した目標が達成された	4	4
(9) 協働で行うことにより効果がある事業だった	4	4
(10)今後の課題と改善策をお互いに話し合った	4	4

12　まとめ（今後の課題や改善点など）

・団体側

・プログラム自体は、参加者からは好評を得ることが出来た。開催時期に感染症がまん延していたことで特に子育て中の家族では、家族感染が多く

みられ欠席者が多い回もあった。また、今後の課題としては、幼児期の子どもの母親を対象とする講座では、託児が必須であることも実感した。実際に託児があれば申し込みたいとの申し入れが多くあったことも事実である。今後の課題としたい。

・担当課側

・事業の周知が課題である。広報やＳＮＳ、市内保育園、幼稚園等にチラシの配布依頼をしたが、募集人員には達しなかった。また、母親のみで参加する事業のため、託児が必要であると感じた。限られた予算の中で、充実した事業にするために、工夫が求められる。

13　その他

特になし